

## 外断熱体験 …… 正岡 智子



私は建物の、長寿命改修の提案を、マンションの管理組合や、ビルのオーナーさん達に行っています。特に力を入れているのは、コンクリートの建物の外側に、断熱材を施工する、湿式外断熱工法です。とは言っても、私自身は、いまだに内断熱仕様の住いです。外断熱改修をされた、体験者からお聞きした、「ほんわか暖かい」とか、「電気代が半減しました」とか、「喘息や、アレルギーが改善しました」などの体験談を、自分の事のように皆様にお伝えしている状態です。実際は、外断熱の建物の、住み心地を体験したいと、思っています。

以前、イヌイットの暮らしが、テレビでドキュメンタリーで放送されました。そこは、一日中夜が明けない季節もある、極寒の世界でした。そんな状況の中で、イヌイットの5人家族の家は、平屋でプレハブの様なシンプルな建物でした。家の中では、3人の幼い子供たちは、素足で走り回り、寝るときの姿は、下着のパンツ一枚だけで、上半身裸でベッドにもぐりこんでいました。若いお母さんも、食事を作る姿は、ジーパンにタンクトップ姿で、腕も肩も出して、家の中はまるで、真夏の様な雰囲気でした。しかし、一步外に出るときは、全員着ぶくれをした、南極の越冬隊員の様な防寒服を着て、凍った海の上をそりに乗って出かけて行きました。いったいこのイヌイットの人達の家は、どうなっ

ているのかしら？もしかしたら、外断熱仕様ではなかろうかと、詳しい事がとても知りたくなりました。

又、沖縄旅行をした時に、現地の伝統的な住まいは、琉球瓦の下に、土壁が厚く敷き詰められてあり、非常に断熱効果があると聞きました。その土地の材料を使って建てた、地産地消の伝統的工法が、その地域の風土にあって、住み心地の良さに繋がっているのでしょうか。とても納得しました。沖縄では、コンクリート造はとても暑く、湿気で劣化も早いと聞きました。暑い地方も、外断熱工法の普及活動が、必要のようです。

もうひとつ、叶う事なら見てみたい建物があります。源氏物語などを読むと、平安時代の貴族の住いは、庭に開け放して月を見たり池を見たり、雅ですが、夏はともかく、冬の寒さはいかばかりであったか。十二単の重ね着で、暖かくしていたのか、冬の部屋の温度はどれほどだったのか、タイムマシンに乗って、寝殿造りの建物探訪してみたいものです。



## 金冠日食の観測 …… 吉田 一空



5月21日、国内の広い地区で金冠日食を観る事が出来ました。

以前から観測出来ることは知っていましたが、4月に入ってインターネットで確認したところ、観測可能帯の中心線が自宅から800メートルほど北側を通過することが判明し、ちょっと興奮しました。ほぼ完璧なリングが観測出来ると云うことです。こんなチャンスは私の一生のなかでも最初で最後の事なので、なんとか記念を残したいと思い若い時から趣味としていた写真に残そうと考えました。

観測機材を買いそろえると、かなりの高額になるため現在所有している機材でどの程度の事が出来るかを考えました。

準備した機材は、①一眼レフデジタルカメラ・一眼レフフィルムカメラ・コンパクトデジタルカメラ、②600mm反射式望遠レンズ・100～300mmズームレンズ、③三脚大小2脚、④手作りフィルター（偏光シート3枚組み合わせ）

当日は、朝5時ごろ家を出て多摩川の河川敷で機材のセットを始めましたが、東の空から予定の軌道方面は雲が立ち始めて太陽が顔を出すとは考えられない様な状態で、カメラのセットを終えた時点では小雨が落ちてきてカメラにカバーを掛けるような状況でした。太陽の欠け始めの時

刻になっても雲は厚く希望は益々薄くなって行きました。

金冠日食が最大食になる7時34分の直前に急に太陽の想定位置付近の雲が薄くなってきたので、急いでカメラを向けましたが600mmレンズでは視野が狭いのでなかなか位置がつかめません。

やっとファインダーに太陽をとらえ、フィルターの濃度を調整しシャッターを夢中でおしました。

写真を撮れる状態が2～3分程度しか続かなく、流れている薄雲を通しての撮影のためにフィルターの濃度調整が難しく上手く撮れているか心配でした。

好天ならば太陽を観ながら軌道を追えるしフィルターの調整も不要なので、欠け始めから欠け終わりまでを撮影し連続写真として編集しようと考えていました。しかし、あのような雲の状態、最大食をとらえられたのは大変な幸運でした。

流れる雲の間からとらえた写真を添付します。ほぼ完璧なリングを撮影出来ました。

